

## 府中市生涯学習審議会（平成21年度第3回） 会議録（案）

1 日 時 平成21年6月22日（月）午後2時～4時

2 場 所 府中市役所北庁舎3階第3会議室

3 出席者（敬称略）

（1）委員13名

加藤 佑子、西勝 義恵、澤井 幸子、設楽 厚子、芝 喜久子、白井 紀子、  
鈴木 映子、寺谷 弘壬、野本 京子、平形 芳郎、比留間 一磨、三宅 昭、  
山内 啓司

※坂本委員・奈良委員は欠席。

（2）職員4名

齋田文化スポーツ部次長（兼）生涯学習スポーツ課長

山村生涯学習スポーツ課生涯学習推進担当副主幹、市ノ川企画係長、大木

※大野文化スポーツ部長は欠席。

4 連絡事項

（1）配布資料の確認

（2）前回議事録の確認

（3）事故について

- ・5月26日開催のスポーツセミナー「野外ウォーキング」の参加者が、セミナー開催中に死亡した旨を報告。死因は内部疾患によるものであり、市が加入している保険の対象外であった。

5 協議事項

（1）諮問事項の検討について

以下のとおり意見交換が行われた。

[意見の趣旨]            ■：委員            ➡：事務局

- （次長の挨拶の中で、「学び返し」の意味を「退職した団塊の世代が学び直すこと」と間違えて捉えている人の例が出た。）「学び返し」というキャッチフレーズは非常に良いものと思っているが、そんな受け止め方もあるのかと感じた。
- 一つの言葉が誤解されて伝わるのが怖い。これからも気をつけなければならない。

- 私自身は、再学習するという解釈があっても構わないと思う。今まで、「学び」という言葉を広い意味で使っていて、限定的ではなかった。
- 生きることは学ぶことだという感覚でいたので、「学び返し」の解釈については驚かない。
- 「学び返し」の受け取り方は様々だが、啓発するときに気をつけていけばいいと思う。
- 36ページ「青少年地域活動の支援」の「ヤングアダルトルームの活用」は新規事業だが、4月から始まったということか。
- ➡ 新規・拡充などの方針は、第1期の学習推進計画を受けた記載のため、すでに開始した事業も含まれている。
- ヤングアダルトルームについては、どの程度活用されているか。
- ➡ 19年2月に開館した新中央図書館に設置されているが、活用については今後、照会をかけて実績をまとめる予定である。また、20年度決算によっても実績が明らかになると思う。
- 設置は中央図書館のみだが、ヤングアダルトの居場所は確保されていない状況があるので、利用の実績があるなら広めていっても良いのではないかという思いで質問した。
- 61ページ「ふるさと意識の高揚に関する学習の推進」について、府中囃子や國府太鼓に関わっていたので関心がある。佐久穂町との交流にも関わっているので内容が分かるが、ネットワークをつくって情報発信をきっちりしていかないと、知っている人は知っているけれども、知らない人は知らないということになりかねない。  
 地域コミュニティについても、申し訳ないが進め方がマンネリ化している。各文化センターで講座などを開催していた時代は活気があった。しかし、今は予算があるからやっているという程度に感じる。職員も行事をこなすだけで苦勞している様子が見受けられるので、地域の活動をする人が核になって出て行けるような雰囲気をつくるべき。そのためには情報の共有化が必要になると思う。行政が主体になり、我々市民が情報を提供していく。  
 また、周りを巻き込んでイベントを実施できる人を教育していくことが望ましい。体育指導員が研修に出ているのを見て、そういった研修があると良いと常々思っている。
- 66ページ「学習相談員の整備」について、「生涯学習相談員の整備」という項目があるが、これは学習センターの中で稼働しているのか。
- ➡ カレッジ・インフォメーションという形で、第1次推進計画の重点施策に掲げられていた。学習センターに学習の進め方などの相談を頂いた際に応じるという体制

をとっているが、広まらなかった。リーダーバンクについても、講師の情報を一覧にするだけで、市民と講師が直接連絡をとっていただいております、運用は学習センターの手を離れているのが現状。そこで、全体的に見直し、カレッジ・インフォメーションとリーダーバンクを一体化させて、啓発と併せてサポートを進めていく。情報提供するためには、どういう方がどこでどのような活動をしているか知らなければならない。その体制をつくるためにも、事業を拡充し、生涯学習の分野だけでなく、NPOや福祉ボランティアなどの分野からも情報を集めてデータベースをつくろうと計画している。まずはしっかり地盤を固めて、みなさんに情報提供できるよう準備しているところである。

- 情報の発信や共有化は、必要であり、かつ難しい問題なのかも知れない。
- 生涯学習推進計画は、生涯学習スポーツ課が一手に請け負っているのか。多方面に関係しているものなので、進捗状況の確認など、どこがマネジメントしているのか知りたい。
- ➔ 府中市総合計画の主管課の政策課だと思う。政策課では計画のマネジメントのため、行財政改革のシステムをつくり、財務計画や行政評価システムと連動させようとしている。生涯学習推進計画や福祉計画などは総合計画の下部・個別計画として位置づけられ、総合計画と連動している。全体としては、政策課がマネジメントを行い、個別的には生涯学習スポーツ課が確認している。
- 体育指導委員は研修を密に受けられているが、文化系は不足していると思う。
- 体育指導委員はスポーツ振興法に基づく身分なので、全国・関東・都道府県単位で研修が行われている。毎年1回は研修に参加して、新しい情報を得ていた。
- 文化の方でも研修を実施する必要はあるか。
- 体育は法律に基づいて組織が確立されている。そのため、例えば教育委員会が大会を開催するときも体育指導委員の応援を求めることができる。文化の方は、文化連が幅広い活動を行っているが、縦のつながりはあっても横のつながりが無い。文化とスポーツが両輪のように推進していくためには、文化にも何らかの形で研修が必要ではないか。
- 文化活動を行う課に協力ができるようであれば、スポーツと同じように何かができるのではないかと。体育指導委員は行政の事業に協力している。
- 文化も同じことができればと思う。ファシリテーターになるには、誰でも良いというわけではない。みんなを先導していくような研修を受けなければ、人はついてこない。
- 文化連ではどのような頻度で会議や研修を実施しているのか。
- 月に1回は役員会を実施するほか、グループごとの行事を行う。行政と関連した

研修は実施していない。生花や書道など単独で研修することはあるが、文化連全体の情報の共有はできていないのが現状。事務局がシンクタンクになるというだけで、行政とはあまり関わりがない。社会教育主事がいると良いのだが、府中市は社会教育主事の資格もないがしろにしていたので、あまり育てなかったのだろうと思う。

- 経験を積んだ人が集まって、どうしたら（行事を盛り上げられるか）話し合う場が必要なのではないか。確かに、体育の組織力はすごい。先日、第8地区青少対の活動で住吉・四谷・日新小学校3校合同の相撲大会を開催したところ、子どもが100人以上も集まった。

<ここまで55分経過・5分休憩>

- 私もキャッチフレーズを作るときは、話題になるようなキャッチフレーズが良いと思う。私は社会学を専門としているが、学習という場合は学びとるもので、もうひとつの教育（エジュケーション）の「エジュケイト」の意味は引き出しから引っぱり出すという意味で、芸能など人が持っている才能を引き出すことである。実際の教育はそういうことができないので、全部を教え込んでいく。そこで私は何を府中から教わったのか考えると何も無い。昨日も姫路市で講演をしたが、私が小学校のころお世話になった人が教育委員やOBになっているので、これがお返しという意味は分かる。1回目の講演の時は講演料を貰わないようにしている。2回目からは貰うが、1回目だけはお返しのつもりでいる。〇〇さんはずっと府中に住んでいて、太鼓を教えているというのも一つの学習でお返しになると思う。私は府中に40数年住んでいて、ほとんど何も感じない。講演したり、地域の公民館でロシア語教えてほしいと言われればロシア人の先生を紹介したり、委員をしたが、ほとんど府中市内の学校に行ったことはない。子どもの学校も市外なので、ほとんど関係ない。だから太鼓も知らないし、お返しするものがない。府中はお祭りが多いので、それが文化であり生涯教育の一部分だと思っているが、生涯教育と言ったら学校が終わった人が学び続けて、お互いに切磋琢磨し情報を交換して、ばらばらになった町を組織づくり、挨拶くらいはできるようになれば良いと思う。私はまだ生涯教育の概念がよく分からないので、もう少しよくみなさんの話を聞いている。「学び返し」は大変奇抜で良い言葉だが、お返しするというのは少しおこがましいような感じがする。例えば、コンピューターの3次元の会社の社長をしているが、コンピューターを教えるといってもコンピューターは1~2年で変わっていく。今の20代10代の方は良くできるので、私の方が教わっている。そうするとお返しというよりも、お世話になっているという感じになる。「学び返し」も良い言葉で厳しい概

念をつけないでやろうと納得したので、それを包括するようなキャッチフレーズに仕上げないといけないと思う。

- みなさん思っていることをお話いただき、すべて包括したものができれば良いと思う。私は結婚してから府中にいるが、生まれて育ってきた中でお互い様という感じで活かせればと思う。
- 福祉社会学を教えるときに、府中市はとても良い。ごみを集めるときは緑色とオレンジ色のボックスに分けて集めたり、福祉会館では朝からお湯を炊いて、おじいさん、おばあさんが入る。おばあさんは上がると踊りの先生が待っていて教えてもらえる。府中市はすばらしい例がたくさんある。中都市で伝統文化がありとても良いと思う。市外から転入した人が府中で定年を迎え住み続けて楽しい雰囲気を作るのは難しい。スポーツジムのサウナでも府中の人、特に年配者が話しをしているが、そうでない人は挨拶もしていない。そういうので府中市がつまらなくなるのではないかと思う。それを食い止めるのが生涯教育だと思っていたが、もう少し勉強してみなさんの話を聞かせていただきたい。
- 先週と同じような話になるが、「学び返し」というのは府中に長くいた人にとってお返しという意味では理解できる。参加しつつ学び返しをしていくには、どういうグループで何に参加するかの情報は必要になる。その情報をどういうふうに手に入れるかというのは、短期のものと年間を通したものがあり、研修や講義など色々良いこともやっているが、与えられるだけではなく、自分も一緒になって講義が終わってからのディスカッションなどによって、参加する密度を高めていく。
- 先ほど話題になった生涯学習の相談員をどういうふうに作るか、役所の方で現場の声をどういうふうに吸い上げをしているのか。例えば文化センターの所長や主任、実際の利用者の声を吸い上げをしながらイベントや事業などを組んで計画している経過が何十年とあると思うが、それがどうも縦割りのような意識があるのか、マンネリしてきている。つまり、新しい人が入ってきて、子どもたちも育ってきている。その子どもたちが新たにメンバーとして入っていけない事情があって、メンバーが固定してきているのではないかと思う。新しい人を仲間に入れていく団体など、エネルギーを受け入れていく土台や場面、場所など、実際どのように機能させようとしているのか。府中は施設など、近辺エリアに比べて、生涯学習のレベルは多様で様々なシステムを持っているなど、ダントツに近いと思う。その中にいる人たちがマンネリを感じるということは、何かそこにあると思う。新しい人が次々と生まれているはずなのに、その人たちを収容しきれない事情がある。イベントの内容なのか、運営の仕方なのか、あるいはその繋ぎ方の問題なのかよく分からない。私は学校にいたので、中学生が育って行って高等学校いったりするが、若い中学生など

活躍する場や、彼らのエネルギーを地域との関係の中で収容できているのか。彼らは部活動という形で野球などを行っているが、その中に閉じ込められていないか。地域との接点があるのか。そういう中学生が育つと、それを見て小学生が育つ。新しいメンバーが参加をしていくという繋がりが大事だと思う。その点で、役所ではどのような取組みをしているのか聞きたい。我々と地域のメンバーと生涯学習を推進している現場との懇談会ができるのか。エネルギーを吸収する何かを見出したいと思うがいかがか。

➡ 新しいメンバーが入れず、固定化してマンネリしていることを感じている。例えば社会教育関係団体が1,200を超えて登録・更新をしているが、毎年聞く声としてだんだん高齢化していった新しいメンバーが入って来られないというのがある。各文化センターでも施設利用者が固定化していたり、コミュニティー協議会でもほとんど同じ人だったりする。これをどう改革していくかについて、我々も今のシステムを廃止して、違うシステムにするというのは難しいので、同じシステムの中でなるべく新しい人に入ってきてもらえるように、メンバーの募集を呼びかけたり、イベントを設けて異世代交流を図るようにするなど、やっている。例として、新しい事業を立ち上げるときに、4・5年前から美術館で「ティーンスタジオ」というのをやっているが、中学生・高校生など10代の人たちが参加できるようにしている。しかし、「ティーンスタジオ」を中学生・高校生を狙ってやったときに、実際には小学5・6年生が全体の8割で、中学生・高校生は1割か2割だった。現実的には、呼びかけたりしているが参加してもらえない。先ほどもあったが、新しい市民や子供たちに参加してもらえるきっかけをつくる試みは、まだまだ試験的段階だと思う。

■ 口コミは大事な機能だと思う。身近な家族や友達からの口コミによって広がっていくと思う。それをサポートできるようなやり方が必要だと思う。上手くいったり、仲間が広がったりという実例を体験談のように聞かせてもらうなどを大事にすると思う。私は小学校の校長をしていたが、中学生をどう育てていくかというのを小学校側から働きかけをしてきた。出前授業といって、中学校の先生に小学校で授業をしてもらったり、図書館に中学校担当の司書の方を呼んで、6年生を対象に「図書ガイダンス」というのをやったりした。図書館が彼らにとって安らぎや賑わいになり、それをやらなかった前年に比べると本を読む子どもたちが大分増えた。それを3年間続け、本を借りる子どもたちが増えた。それを続けていくことによって繋がる。そのガイダンスを1回か2回やるか、やらないかによって一つずつ積み上がっていく。そのように小学校に中学校がでてくるとか、中学生の出番をみんなが応援するとかすると状況が変わってくる。そして、それを見て子どもが育ってい

く。本当に些細なことだが、口コミで広げていくのは大事だと思う。実際に、1200団体を一堂に会して会をやっても、それはなかなか難しいと思う。それぞれの持ち場でどのように繋いで出番を作っていくかを施行し、成功事例のようなものを起こし、みんなで協力することが一番身近で確実なのかと思う。先ほどの相撲の話聞いて安心できたので、そういう話はここで話題になれば良いと思う。

■ 今おっしゃったのは良い例だと思う。私が住んでいるそばに府中公園があり、その池のそばに東屋があった。そこは浮浪者の寝泊り場になったので、だんだんと潰して今は全く無くなってしまった。そして、公園全体が見渡せる高台のところにはテーブルと椅子があったが、中学生・高校生の男女が夜中に煙草をすったり、酒を飲んだりしていた。誰かが訴えてでたと思うが、それを注意せずにテーブルと椅子を取ってしまった。そこは座れないから、どこかに行ったのだろうと思うが、こういうのはどういうふうに入りに入れていくのだろうと思う。私は先生を長くやっているの、こういうのは本来、駄目な子だからやらなくていいと大学では言うが、地域の場合はそういう子も抱きかかえないといけない。私たちは、そういう面を捨て置いて、理想的な学習だけ議論しても良くないのではないか。ただこれは市役所には救えないと思う。話は飛ぶが、私は怖くて注意できない。すぐ殴られる。体を鍛えて、やられそうになったら防御だけはしようと思っている。せっかく良い公園ができて、良い東屋があって、良いテーブルあるのを全部はずしてしまうのは、一部の問題は解消するがつかないと思う。今度は路地について酒や煙草が売っているところに行って座り込んでいる。

■ そういう時は怖いと言わないで、府中市の場合は青少対が十数団体あり、青少対の委員長や自治会長など住民方が通報をする。みんなが悪い子ではないから自治会や青少対に言えばテーブルなど外さなくて済む。怖いというだけでなく、注意すればちゃんと聞く。一時的に吸っただけで、周りの住民がもっと…。

■ 一時的ではなく恒常的です。生涯教育に関係あるが、府中公園は確かに便利なので、1月の出初め式などみんなやって来る。その人たちは1回きりのイベントだから偉くはりきってマイクで歌をうたったりしている。みんな一生懸命やっているが、もう少し住民のことを考えて控えめにやってほしいが、出来ない。あまり注意すると良くないと言われることもあり、それは難しい。みんな一生懸命やっているところに、水を差すというのは出来ない。そういうことから取り上げていくのも、非常に重要だと思う。

■ 本当に注意するときは、気をつけないと大変だと思う。

■ 府中でも広い通りでは煙草を吸ってはいけないことになっているが、吸っている人がいると私も注意する。知らなかった人は謝るが、そうでない人もいる。警察官

も素通りするから、注意するように言う。

- 青少年の居場所もこれからの答申の中に謳ってもいいと思う。
- 私は民生委員をやっている。よくお年寄りのお宅へ訪問するが、月に3回広報が出ているが、読んでいない。内容は豊富で、たくさん良いことが書いてあるから読むよう言うが、介護保険についても情報が書いてあるが分かれろとしない。なので、口で伝えることは大事だと思う。つい最近もお年寄りのところに行って、ある事業について読み聞かせると分かるので、先ほどの口コミがものすごく重要だと肌で感じている。それから体育指導員についての話で、それは国で決めてあるので、それなりのコストがあるが、文化の方は無い。体育に関しては身体を健康に保ったり、医療費削減や高齢になってからも元気でいたりということで、健康づくりを重要視していると思う。文化については、物凄く幅が広い。例えば女性でいえば、料理教室や語学、茶道、映像など一括りにして、国が指定して地位をとというのは難しいと思う。市がらみの生涯学習にあてはめると、どういうことになるのか考えている。それをどういうふうに組織立てて指導員のような要素を持たした位置を作ったらいいのか分からない。先ほどおっしゃった、コミ協などで各分野別に分かれてやったら良いのではないかということだったが、市ではどういうふうに取り上げてもらえるのか。
- 疑問に思う点など、みなさんで協議する良いものになっていくと思う。
- 私は府中に来て、長く住んでいるわけではないが、文化関係でもそれなりに組織立っている。例えば、映像連盟は市内のグループがいくつ入っているなどと、きれいにまとめられる。流派によって分かれていると、新しい人にとっては入りたいところを探すのが大変。そこで回りまわって、元住んでいた場所にわざわざ通うことになる人もいる。そういう人たちが、この連盟があるおかげでいろいろなことができる可能性があるので、文化が組織立っていないとはあまり思わない。絵画ならこういう種類のグループがあると、あらかじめ分かるようになっている。今後はグループをより身近にしていく方法を考えていけば、立派な文化都市になるのではないかと。有名な人を呼ばなくても、人生を楽しみながら過ごせれば、いつまでも健康で長生きできれば一番幸せではないか。それを形にできれば、生涯学習の目的に行き着くのではないかと思う。
- 私も生涯学習は、プロになる道ではなく、自分が進んでいく道が決まるきっかけづくりになれば好ましいのではないかと思う。
- ボランティアセンターで講座を開設している。今回、「地域デビュー」ということで、今回配布されたシニアガイドブックに関連するが、シニアの方に社会進出をしていただく、家に閉じこもらないで府中を見ていただく、という内容でコマーシ

ャルをしている。しかし、現実には反応がない。コマーシャルの仕方に問題があるのか、受講者の意欲に問題があるのだろうか。7月4日に府中駅北第2庁舎で地域デビューのセミナーを開催する。きっかけづくりのためにも参加していただきたい。

- 府中市民は、ふるさと意識をどこに感じているのだろうか。そういうことを意識して団体の方はいろいろな活動していると思う。府中市が、東京の中で最も住み続けたい街と評価されている中で、新しく入ってきた人がふるさと意識をどこに感じているのか。身近に感じられれば、その分、自分の街や関わりを大事にしてくれると思う。ふるさと意識をどう育てたら良いか探りたい。
- ➡ 地域の関わりでもあり家庭教育でもある難しい問題。学校での取組みについては、学校教育プラン21の43ページ「府中を愛する・府中の郷土愛を育てよう」ということで、まず先生に府中をよく理解していただくため、研修や協力校の推進などの取組みを実施している。その他に、総合学習が学校で行われているが、地域の方においでいただいて伝統芸能を指導していただくなどの授業を実施している。地域の事業については、各文化センターで地域まつり、七夕の集いなど伝統的な事業を実施している。制度的に硬く進めるのではなく、整備した中で、はじめて成果が出るものなので、その中で一番の順序は家庭教育だと考えている。
- 次回に向けて、本日出た話を進めていきたい。

## (2) 視察について

都内の市部と区部の1箇所ずつを視察する。時期については、7月、8月中を予定している。相手方の都合に合う方が視察に行くこととする。視察先については調布市・三鷹市・八王子市を含み事務局で調整後、連絡する旨が話し合われた。

視察を兼ねて、生涯学習センターで審議会を開催する計画も進めていく。

### [次回の開催について]

以下の日程で開催する事が決定した。

全体会：7月27日（月）午後3時～5時、府中市役所会議室